みどりの女神が行く！

国土緑化運動のPR

第67回全国植樹祭

飯塚 帆南（いいづか ほなみ）
平成5年7月26日、群馬県生まれ。2016年ミス日本みどりの女神として活躍中！

未来へつなぐ森づくり「第67回全国植樹祭」

皆様こんにちは！6月5日に、第67回全国植樹祭が開催された長野県に伺いました。

今回の植樹祭では、式典会場と県内4箇所の植樹会場がライブ中継で繋がれ、スクリーンを通し長野県の皆さんの団結と絆を強く感じました。

プロローグでは県内の木と森の文化を代表する山車等が集まったパフォーマンスで、会場が一斉に盛り上がり、私もとても興奮しました。伝統芸能などを通し、木の文化や自然に対する尊敬の念が私たちの生活の中で代々受け継がれてきたことに気づき、改めて私も次世代に受け渡す使命を感じました。

天皇・皇后両陛下によるお手植えとお手播き、代表者の記念植樹などの後、サプライズで市川海老蔵さんが登場され、歌舞伎を披露されました。海老蔵さんは3年前から長野県志賀高原で「後世に残そう森・水・いのち」をテーマに「ABMOR-」プロジェクトという森を育てる取組をされています。今後、このような取組がさらに広まり、より大きなムーブメントになることを私は期待しています。

式典の最後には、東日本大震災被災地へのエノキリレーが行われました。皇居内のエノキから種を採取し、長野県内で育てられた苗木が、来年の開催地、富山県に届けられ、再来年に福島県開催の植樹祭で植栽されます。県の垣根を越え、たくさんの愛情により、大切に育てられた苗木が、長い旅を終え被災地に届き、現地の方々を笑顔にするこのリレーに私は国としての一体感を覚え、胸が熱くなりました。

心に響いた土倉庄三郎翁 没後100年記念式典

6月19日には奈良県川上村で、「吉野林業中興の祖　土倉庄三郎翁　没後100年記念式典」の司会を務めさせていただきました。土倉翁は、吉野林業の父と呼ばれ、独自の林業法を開発された方です。植栽本数が1ha当たり8千～1万本という超密植が特徴で、この手法は日本全国の林業のモデルとなりました。

また土倉翁は熱心な林業家だったと同時に社会貢献にも力を注ぎ、「財産の三分の一は国のため、三分の一は教育のため、三分の一は自分の仕事のために使う」という考えで、生涯過ごされたそうです。新聞社や鉄道の設立、同志社大学や日本女子大学の創設等に、多額の寄付をするなど、わが国の近代化に貢献されました。

川上村の美しいみどりを眺め、土倉翁の功績に思いを馳せるとともに、大切に守られてきたみどりが未来へと受け継がれ、吉野林業を伝承し育てられた素晴らしい木材が私たちの日々の暮らしを豊かに彩ることを願って、式典に臨んだ一日でした。

土倉庄三郎翁没後100年 記念式典